

●日本列島が抱える自然災害に対する 10 の脆弱性

①国土形状	南北 2000km、東西 2000km に及び 細長い国土 (幅は最大で 250km 程度)
②四島	海峡により 陸地が分断 。多数の島しょ部で構成
③脊梁山脈	細長い国土を 2000m 球の山脈が縦貫 し、日本海側と太平洋側に二分 河川は急勾配で短く、流域面積も小さい (国土は 109 の一級水系と 2722 の二級水系が作る分水嶺で細かく分割)
④地質	国土面積の 70% を占める山岳地帯は、 崩落しやすい風化岩や複雑な岩種 で構成
⑤平野	河口部か山間盆地にしか平野がなく、 狭い平野が分散 している上に、国土面積に対する比率が小さい (低地 :13%、台地 :12%) すべての大都市は河川の氾濫区域に存在
⑥軟弱地盤	大都市のほとんどが 軟弱地盤 の上にある
⑦地震・津波	国土面積が世界の地表面積の 0.25% しかないのに、 マグニチュード 4 以上の約 10% が日本で発生 (マグニチュード 6 以上では全世界の 20%)
⑧豪雨	多雨 : 地球総平均 (800 ミリ) の 2 倍以上の年間降雨 (1400~1600 ミリ) があるが、 梅雨末期と台風期に集中 (⇒脆弱な水資源、大きな災害リスク)
⑨強風	台風の通り道 に沿うかたちで列島が展開
⑩豪雪	国土面積の 60% が積雪寒冷地域 (年間累計降雪深 4m 超の豪雪地帯に大都市が存在)

図表：国土学総合研究所所長、元国土交通省道路局長・技監の大石和久氏作成